

先入観や思い込みを取り払って

富良野市立山部小学校長 桑原久美

山部の町中を走る国道237号線には、レンタカーや見慣れぬ土地のナンバープレートが付いた車を多く見かけるようになりました。観光シーズン真っ盛りといったところでしょうか。その国道には「北海道ガーデン街道」と地図に名前が記されています。調べてみると「北海道の代表的な美しい8つのガーデンが集中している、大雪～富良野～十勝を結ぶ全長約250kmの街道」と書かれていました。先月地域の皆さんと行った「花いっぱい運動」は、ガーデン街道を飾るにふさわしい取組だと改めて感じました。一方山部に住んで4年目になりますが、まだまだ知らないことが多く、知りたい意欲が湧いてきます。

さて、今日で1学期が終わります。コロナ禍の状況は以前変わりませんが、時期を変えること無く運動会や宿泊研修を行えたことは大きな成果です。また、子どもたちに大きな病気や怪我が無く、無事夏休みを迎えられることをうれしく思います。これも保護者や地域の皆さんの御支援御理解あつてのことと感謝申し上げます。

先日、ある会議に出席しました。ある行事が提案され、説明後に意見を求められたので、「昨年是这样だったので今年も同様なことがないようにお願いします。」と私は発言しました。ところが、説明をほとんど聞かず文書もしっかり読んでいなかったため、すでに私の危惧は解決された提案になっていたことに後で気付くという恥ずかしい発言になってしまいました。省みると、「提案は昨年と同じだろう」という勝手な思い込みから起こった失敗だと考えられます。本当に恥ずかしい限りです。穴があったら入りたいのはこのことです。

学校でも思い込みと思われる子ども同士のトラブルに何度も対応したことがあります。「先生、〇〇さんが叩いてきた。」

低学年、特に1年生ではよくある光景です。実際に担任が叩かれている現場を目撃していない場合、本人やその相手、近くで見ていた人に事情を聞いて事実を推測します。そうすると、互いに相手が視界に入らないまま勢いよくぶつかったようだと考えられます。しかし、叩かれたと思っている子ども。そのような時は、

「痛かったんだね。びっくりしたでしょう。」
と、子どもの気持ちにまず寄り添います。その上で、叩かれた場面を見ていないことを確認してから、故意でなくても「ぶつかってごめんなさい。大丈夫？」と互いに声をかけるといいことを伝えます。思い込みの部分本人と確認しながら、今後適切な対応ができるようにしてあげることが大切です。一方、大人も気を付けなければなりません。同じ子から「叩かれた」という訴えがあったとき、「また思い込みで叩かれたと思っている」と判断することです。こちらもそう思い込んでしまいがちです。本当に叩かれているのかもしれないと、事情を確認してから指導しなければなりません。



子どもだけではなく、大人に対しても誤った先入観は良好な関係をつくりづらくします。噂や第三者から聞いたことは、「そう思っている人がいる」とだけ押さえ、自分で直接見て話してどんな人か判断していきたいものです。

